



今月は検査科が担当いたします！

血液を使ったピロリ菌の検査とは？



採血をすることにより、ピロリ菌の抗体があること（陽性）を確認し、胃の中にピロリ菌が存在する（感染している）可能性が高いことを調べる検査になります。そして、その後の検査を勧めていく手助けとなっていきます。つまり、感染の有無を調べるスクリーニング検査としても最適です。



医療保険で検査できますか？

「ピロリ菌抗体検査」は原則保険適用となりません。「ピロリ菌抗体検査」が保険適用になる条件として「胃カメラ（胃内視鏡検査）をして慢性胃炎の所見がある」場合や「胃・十二指腸潰瘍の経験がある」場合、その再発を繰り返している場合などややハードルが高い感があります。また、胃カメラなどを行うと侵襲性が高く患者様にも体への負担を与えてしまいます。そのため胃カメラをせずに済む、この「ピロリ菌抗体検査」を健診等で活用している病院や施設が多くあります。当院でも健診のオプションとしてこの「ピロリ菌抗体検査」を行っており、更にはワンコインでお受けしています。

□



ワンコイン健診でも受けられます！！



vol.62/7月号
発行/地域医療連携室
後援/せたな町



病院公式SNSもご登録ください😊



今月のひとさら

レモンで夏バテ予防！



今月の担当：栄養士 杉村 瑞都

今回は、酸味が効いたレモンを使ったレシピをご紹介！

レモンに含まれているクエン酸が疲労回復をサポートしてくれます♪

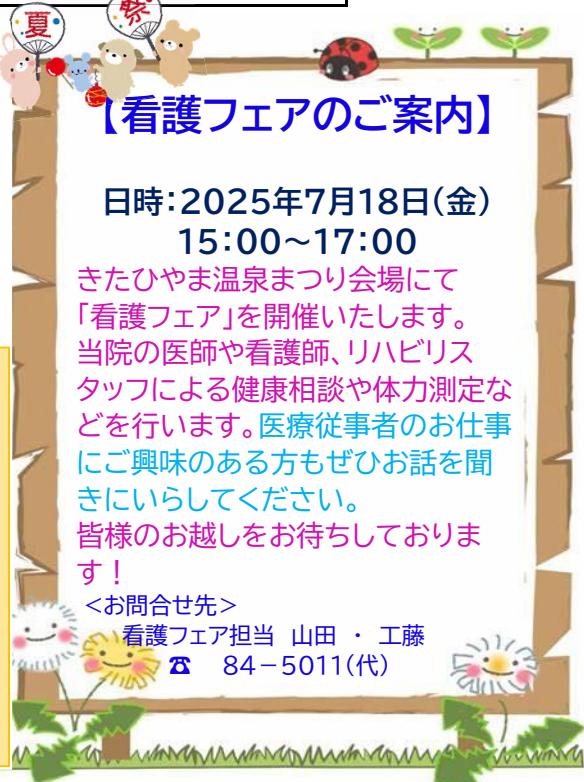
材料

- ・レモン...1個
- ・塩...レモンの10%～20%
(レモン1つ100gとして10～20g)
- ※塩でなく、砂糖やハチミツでもOK

★塩レモンは調味料に、砂糖漬けやハチミツ漬けはソーダで割ったりアイスにかけるのもお勧めです！

作り方

- ①煮沸消毒した清潔な瓶（容器）を用意する。
- ②レモンをよく洗い水気をふき取る。輪切り・くし切りなどお好みにカットする。
- ③瓶（容器）に レモン→塩→レモン...の順番で交互に入れる。
- ④冷暗所に置き1日1回混ぜて1週間以上熟成させる。





そもそもピロリ菌って何？

ピロリ菌とは正式には“ヘリコバクター・ピロリ”といい、胃炎や胃・十二指腸潰瘍の原因になる細菌のことです。時に胃がんの原因にもなり、その存在は特に胃に悪影響を及ぼすことになります。そのため、可能なら除菌をした方が良いでしょう。

ピロリ菌は井戸水や土壌に存在し、幼少期に感染しそのまま胃に生息して感染が一生涯続くとされています。感染の仕方はまだはっきりしていない部分もありますが、

(1) ピロリ菌に汚染された水を飲む、(2) ピロリ菌に感染している親などから子供への食べ物の口移し、が主な原因とされています。(1)については、近年衛生環境が整って、若い世代の感染率は下がっています。衛生環境がよくなかった時代に生まれ育った年代での感染率が高く、高齢になるほど高率になっていると言われています。若い世代でも親が感染者で幼いころの口移しなどから唾液を介して感染している可能性はあります。ピロリ菌の感染を予防することは難しいですが、ピロリ菌が原因となる病気を発症したときなどに早期に検査や治療をすることで胃がんなどの予防につながると考えられています。

胃がん検診の現状！



日本人の死因第1位は現在も“がん(悪性新生物)”です。その中でも胃がんは2024年の統計で男性で3位、女性でも5位にあります。その発見への対策として住民検診などで胃がん検診は行われ、50歳からが対象になります。この場合、胃X線検査と胃内視鏡検査で行われますが、やはり体への負担が大きいことになります。残念ながら簡易的に出来る「ピロリ菌抗体検査」はその対象ではありません。また、50代よりはリスクが低いですが40代からも気にかけた方が良いともされています。以上の事からも「ピロリ菌抗体検査」をお勧めしたい理由を考えます。また、胃がんリスクを判定する方法として、ピロリ菌抗体検査に加え血液中のペプシノゲンを調べる「胃がんリスク検診(ABC検診)」という検査方式があります。ただ、胃がんの死亡率減少効果の有無を判断する根拠がまだ不十分とされ、胃がんそのものを見つける検査ではなく、あくまでも「リスク評価」のためだけになります。しかし、私自身はこのABC検診に着目しており、なぜならピロリ菌の抗体検査と胃粘膜萎縮(老化)マーカーのペプシノゲン検査と組み合わせて、胃がんリスクが高いかどうかを調べる事によって、胃の状態に応じた検診間隔を設定し、効率的に検診を行う方法もあるからです。機会があればいつかお話しできればと考えています。

文責:検査科 金田 晃

○薬剤部からの豆知識○ なんでなんでロキソニンと一緒に胃薬が処方されるの??



ロキソニンなどに代表されるNSAIDsと呼ばれる解熱鎮痛剤には副作用として胃潰瘍、胃痛などの胃腸障害が発生することがあります。この副作用を防止するために胃薬が処方されます。

胃腸障害がおこる原因としては

NSAIDsは痛みや炎症の元になるプロスタグランジンと呼ばれる物質の生成を抑えることで鎮痛作用を示します。実はこのプロスタグランジンには胃粘膜保護作用もあります。このため、NSAIDs服用により、胃粘膜保護作用が低下し、胃酸などからの攻撃で胃が攻撃を受けることにより、胃腸障害が発生します。

このことから、胃酸を抑える薬や、胃粘膜保護作用のある胃薬と一緒に処方されます。

痛み止めを飲んでいて、不安などありましたら、医師や薬剤師に気軽にご相談ください。

